第２グリーンベルトの「東山デルタ像」

Googleマップで東山キャンパスを見ると、中央図書館の真正面、池の向こう側に、「観光名所」として「東山デルタ像」が表示されます。知る人ぞ知るこの彫像ですが、付近の銘板によると、名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）の創立30周年（1982年）を記念して名大に贈られたもので、タイトルは「坐‥」とされています。

1982（昭和57）年９月に開催された名大の整備委員会の議事録によると、名大生協から法人化20周年（1981年）を記念した彫像を寄附したいとの申し出があったことについて審議がありました。デザイン案も提示されましたが、この段階では三角形を基調とした２つの立体像が並ぶものでした。当初の仮題は「永遠の時間」で、像はピラミッドを示し、一方はそれが長い歳月をかけて崩壊した状況を表現していると説明されています。

これをデザインしたのは、この議事録によると愛知県立芸術大学大学院修士課程の学生２人です。整備委員会では、彫像と周囲の調和を懸念する意見も出ましたが、同大学の教員が製作指導をしており、現地調査も行っているとして、調和への配慮を同教員に要望することを条件に承認されています。

その後の名大側の記録で、この像のことが記されたものは見つかっていません。1984年５月発行の『名大生協ニュース』掲載の写真にこの彫像が写っているため、その間に建立されたものと思われます。名大生協でも、正確な建立年月日は分からないそうです。タイトルは「つち」と読むとのことですが、その趣旨は不明です。また、実際に建てられた彫像は、当初のデザイン案にあった崩壊したピラミッドを示す方は立体ではなくなり、地面に埋め込む形に変更されています。

この彫像「坐‥」は、「東海国立大学機構プラットホーム」の新営に伴って撤去されることになり、その姿を見られるのもあと僅かです。

1　彫像「坐‥」（「東山デルタ像」）。
2　後ろから見た彫像。６つの三角形が連なる構造になっている
3　彫像の後方へ続く形で、６枚の三角形の石が地面に埋め込まれている。当初のデザイン案が意図した、崩壊したピラミッドを示すものか。
4　1982年頃の東山キャンパス。1981年に中央図書館が竣工した。
5　1988年の卒業記念写真（文学部学生、名大生協卒業アルバムより）